

## 小集団での話し合い例 1

### ■バズセッション

#### ◇特徴

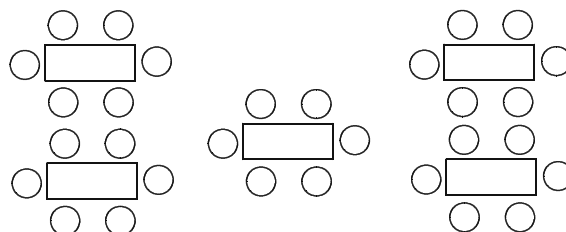
できるだけたくさんの児童生徒の意見やアイデア等を引き出す際、全体ではなかなか意見が出にくいようなときに2人から8人くらいまでの小グループに分け、一人一人が自由にディスカッションに参加できる話し合いの形態である。

#### ◇効果

- ・児童生徒はお互いに自分ができたことを相手に教えたり、分からないことを聞いたりするなど、主体的な学習活動が期待できる。
- ・互いに協力することに価値を見出したり、話し合いに積極的に参加できるようになったりすることで自分の力に自信をもてるようになる。

#### ◇手順例

- ① 話し合うテーマを伝える。
- ② 2人～8人グループを作り、役割(司会等)を確認する。
- ③ 意見交換や交流をする。
- ④ 各グループから発表し合う。



※バズbuzzという英語はハチなどがブンブンと音を出して騒がしくしている状態のことである。

## 小集団での話し合い例 2

### ■ブレインストーミング法

#### ◇特徴

一つの論題について、多数のアイデアをより多く出すことに専念する、創造的な話し合いの手法である。

#### ◇効果

- ・児童生徒の想像力を高め、自由な雰囲気の中で、活発な話し合いが期待できる。
- ・様々な角度から考える拡散思考の力が培われる。

#### ◇手順例

- ① 論題を設定する…具体的で分かりやすい話し合いのテーマを設定する。
- ② グループを編成する…等質のメンバーにならないよう5人～12人くらいが適当である。
- ③ 進行役を決める…軌道修正しながら話し合いを盛り上げる。
- ④ 自由に発言する…下の4つのルールに従い、できるだけたくさんの意見を出し合う。
- ⑤ 出された意見を全て書き出す…発言が出尽くした後で記録してもよい。

#### 4つのルール

- **批判厳禁**：出されたアイデアに対しての批判などは一切してはいけない。
- **自由奔放**：どのような突飛なアイデアでも思いつくままに出し合う。
- **相乗り歓迎**：他のアイデアに乗って出される意見も歓迎である。
- **質より量**：できるだけたくさんの多様なアイデアを出すことが望ましい。

※ブレインストーミングとは、「脳の嵐」という意味であり、アメリカのBBDO社のアレックス・オズボーンが考案出した発散思考法である。

## 集団による話し合い例 1

### ■ディベート

#### ◇特徴

一つの論題について肯定側と否定側とに分かれ、ルールに従って議論し、最終的にどちらの議論が勝っていたかの優劣を判定する話し合いの形態である。

#### ◇効果

- ・論理的に物事を考えたり、積極的に傾聴したりする能力が養われる。
- ・自分の意見を効果的に人に伝える能力が養われるとともに、対立する側に立って物事を考える習慣が身に付く。

#### ◇手順例

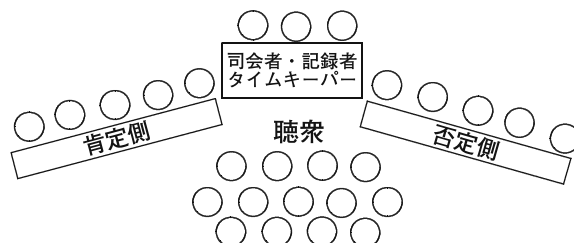
- ① 肯定側の立論・否定側の立論…論題に対してそれぞれの側が意見を述べる。
- ② 作戦タイム…相手側の立論に対する反対尋問を考える。
- ③ 否定側の反対尋問・肯定側の反対尋問・自由論戦
- ④ 作戦タイム…論戦で相手に指摘された点に対する反論を用意する。
- ⑤ 否定側の最終弁論・肯定側の最終弁論

#### ★ 論題例

- ・事実論題「邪馬台国は九州にあった」等
- ・価値論題「朝食はご飯かパンか」等
- ・政策論題「制服を自由にするか」等

#### ◇留意点

- ・感情的な発言や根拠のない発言はしない。
- ・相手チームの発言中は相談したり発言したりしない。



## 集団による話し合い例 2

### ■パネルディスカッション

#### ◇特徴

論題（テーマ）について、司会者（コーディネーター）の進行の下、三つ以上の対立した意見や別な観点からの考え方をそれぞれの立場で主張する代表者（パネリスト）が聴衆（フロア）の前で相違点などについて討議をし、聴衆も質問などして討論に参加しながら多人数の中で考えを深めていく話し合いの形態である。

#### ◇効果

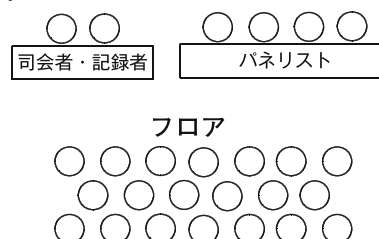
- ・順序よく論理的に話し合いが展開できる。
- ・パネリスト同士の討議によってフロアに興味をもたせることができる。

#### ◇手順例

- ① コーディネーターからの説明…テーマ・進行手順の説明やパネリストの紹介をする。
- ② 各パネリストによる意見発表…自分の立場・意見と根拠等を述べる。
- ③ パネリストによる討論…他のパネリストへの質問や反論、自由な討論を行う。
- ④ 全体討議…コーディネーターが論点の整理をし、フロアを交えての質疑応答・意見交換を行う。
- ⑤ 各パネリストや司会者によるまとめ

#### ★ 論題例

- ・「私たちの中学校の魅力を小学生に知ってもらうにはどういう方法がよいか」
- ・「クラス全員で取り組むボランティア活動は何がよいか」



## (8) 授業改善

### ○ 授業観察のチェックポイント

全ての児童生徒が「分かる喜び」できる楽しさを実感できる」授業づくりを進めるためには、教材研究の方法や基本的な指導技術を身に付けるなど、常に自己の指導力の向上に努めることが大切です。

そのため、自分の授業を観察してもらい指導を受けるとともに、他の教師や他の学校の授業を積極的に観察することは極めて重要です。

授業づくりや授業を観察する際には、次のチェックポイントを活用し、学習指導の充実を図りましょう。

#### 授業観察のチェックポイント

- ① 児童生徒が学習に取り組みやすいよう教室環境が整備されている。
- ② 本時の課題を分かりやすく示している。
- ③ 児童生徒全員に伝わる分かりやすい指示をしている。
- ④ 授業の流れが一目で分かる板書をしている。
- ⑤ 目標を実現するための学習活動に取り組ませている。
- ⑥ 児童生徒の発言内容等に対し、共感的な関わりを大切にしている。
- ⑦ 児童生徒のノートの記事や発言などから、つまずきや誤答等を捉え、個に応じた指導を行っている。
- ⑧ 本時の課題に正対するまとめを行っている。
- ⑨ 本時の学習内容の定着を図る学習活動や問題を位置付けている。
- ⑩ 計画した時間を余したり、超えたりすることなく授業を終えている。

#### 発問のチェックポイント

- ① 発問の趣旨がよく分かり、ねらいが明確になっている。
- ② 興味・関心を喚起するように工夫している。
- ③ 積極的な学習を促すように工夫している。
- ④ 要点がまとまり、簡潔な内容になっている。
- ⑤ 正しい言葉遣いになっている。

#### 指名のチェックポイント

- ① 児童生徒のよさや特性などを伸ばす観点や、考えを広げたり深めたりする観点から意図的、計画的に指名している。
- ② 同じ児童生徒や、挙手する児童生徒ばかりに偏らないように配慮している。
- ③ 指名した児童生徒の表情を見ながら、発言を大切に扱っている。
- ④ 児童生徒の考えがまとまらないときなどは、待ちの姿勢を示し、安心感を与えている。
- ⑤ 児童生徒による相互指名は、教師の意図や学習の目的が反映されにくいことなどに留意している。

#### ノート指導のチェックポイント

- ① ノート使用の約束を決めている。
- ② ノートに記録する場面や時間を保障している。
- ③ ノートの行数や文字数を踏まえ、板書の構成に配慮している。
- ④ 適宜ノートに目を通し、助言や励ましの言葉、感想などを添えて指導・援助している。
- ⑤ 学校全体として、発達の段階を考慮したノート指導の方針を統一している。